

河合良成 官僚政治家, 実業家。3度の危機乗り越え, 小松製作所社長の一方, 財界指導し, 日中・日ソ友好に尽力。

かわいよしなり

帝国大学始・1886 = 富山県硝波郡福光新町村(西硝波郡福光町)に河合藤吉の長男として生まれた。

帝国憲法発布1889 = 3歳 :

日清戦争始・1894 = 8歳 :

日清戦争終・1895 = 9歳 :

日露戦争始・1904 = 18歳 :

日露戦争終・1905 = 19歳 :

第四高等学校,

東京帝国大学法科大学を経て,

大逆事件判決1911 = 25歳 : 農商務省に入り,

明治天皇没・1912 = 26歳 :

大正政変・1913 = 27歳 :

取引所行政, 蚕糸業救済(帝国蚕糸株式会社設立), 米価調節などに参画したが,

本格政党内閣1918 = 32歳 : 米騒動に際し, 外米課長としての責任を感じ,

大正11年条約・1919 = 33歳 : 退官。東京株式取引所常務理事となり, 郷誠之助を補佐。

大暴落・1920 = 34歳 : 東大講師を兼務,

原敬首相暗殺1921 = 35歳 : 「取引所講話」,

水平社結成・1922 = 36歳 :

護憲三派圧勝1924 = 38歳 : 郷とともに東株を退き, 川崎生命の常務となる。

生保の合同に努力し, 日華生命・福德生命などの重役を兼ねる。

また, 郷誠之助を中心に若手財界人の会(番町会)をつくる。

満州事変・1931 = 45歳 :

帝人疑獄事件1934 = 48歳 : 帝人事件に連坐して収監され, 一切の公的地位を退く。

公判において所信をつらぬき,

日中戦争始・1937 = 51歳 : 無罪となる。

健保+総動員 1938 = 52歳 : 「帝人心境録」,

第二次大戦始1939 = 53歳 : 「日本経済をどうするか」。満洲国顧問となり,

大政翼賛会・1940 = 54歳 :

日米開戦・1941 = 55歳 : 太平洋戦争開戦後,

1942 = 56歳 : 東京市助役として経済問題を担当するも, 都制施行で辞任,

創価学会検挙1943 = 57歳 : 木造船建造本部長,

年金+総武装 1944 = 58歳 : 運輸通信省海運総局船舶局長を歴任。

敗戦・1945 = 59歳 : 敗戦後, 農林次官となり食糧対策にとりくみ,

新憲法公布・1946 = 60歳 : 辞任, 第1次吉田内閣の厚生大臣となり, 労働争議, 失業問題, 引揚者問題などに対処,

新憲法施行・1947 = 61歳 : 日本民主党と日本社会党との連立内閣工作を行う。公職追放となり辞任。小松製作所の争議解決に尽力,

極東裁判判決・1948 = 62歳 : 社長となり同社の再建に努力。

三大事件・1949 = 63歳 :

独立回復・1951 = 65歳 : 追放解除となり,

マデ-事件・1952 = 66歳 : 衆議院議員に当選。

人員整理, 工場統合の後, 相模工廠・枚方工廠をひきうけ, ついでブルドーザー生産を中心に同社の業績発展に寄与するところ大であり, 日経連・経団連の常務理事として財界でも重要な役割を果たす。

イスタレーマ・1958 = 72歳 :

安保闘争・1960 = 74歳 :

全国総合計画1962 = 76歳 : 訪ソ使節団長をつとめる。

東京初光・1964 = 78歳 : 小松製作所会長に退いた後も,

いざなぎ景気1966 = 80歳 : 訪中するなど, 貿易振興に尽力し,

美濃部都知事1967 = 81歳 :

全共闘ビ-ク・1969 = 83歳 : 「明治の一青年像」,

大阪万博・1970 = 84歳 : 「帝人事件」自叙伝三部作「孤軍奮闘の30年」。没した。

著書はほかに「非常時の経済対策」「国家改造の原理及其実行」「戦時断想」などがある。